

できるだけ集中していろいろな物事に取り組む子

池田 康明

てんかんの障害をもつM児は、言語が豊富で、からだを動かすことを好み、身辺処理能力がかなり高いが、集中力に欠け、こだわりが強く、自分が気に入らないと対人関係で度々トラブルを起こし、指示に素直に従えなくなってしまう。情緒的にはかなり不安定で、落ち込んだ時などは体が硬直し、動かさなくなってしまう。以上のような問題をかかえているM児だが、友達と仲良くすることによって一緒に物事に取り組み、指示に素直に従い、できるだけ長く物事に集中できる力をつけたいと考えて本テーマを設定した。

1. 実 態

(1) 障 害 名 てんかん

(2) 生 育 歴

- S 53年6月15日生（11才）
- 出生時 2,780g、定頸6カ月、発歯9カ月、歩き始め17カ月
- 1.7才ごろに熱性けいれんを起こす。
- 3才ごろ京都大学病院でてんかん（難治性）と診断される。以来、現在に至るまで朝夕2回服薬。
- 岩美町立大岩保育園に2年、岩美町立大岩小学校に2年通い、健常児と共に生活する。

(3) 発達検査による実態

① 遠城寺式乳幼児発達検査

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発 語	言語理解
4 : 4	3 : 4	4 : 8	4 : 8	4 : 4	4 : 8

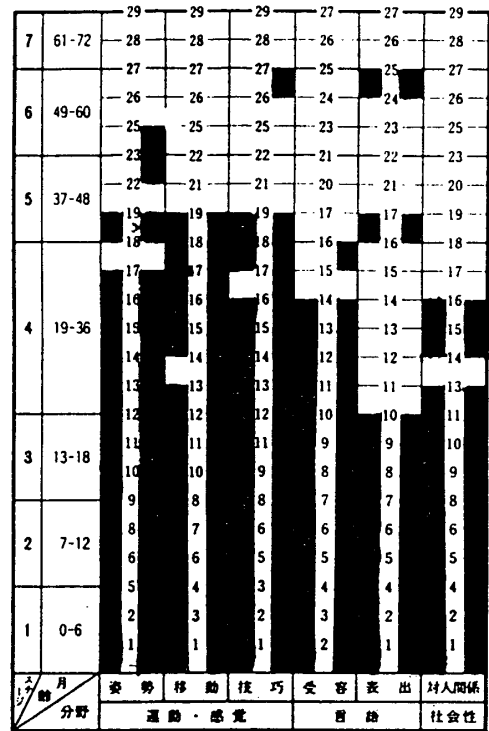
- 体が硬く、呼吸の仕方が悪い等身体面に問題をかかえている。
- だいたい4才2ヶ月の発達を示す。

② からだのこなし輪郭表

- だいたい5～6才程度の発達を示しているが、手指の機能が少し落ち込んでいる。
- 音楽・リズム面では、リズムカルに歩いたり、手・足・楽器を鳴らすということが達成されていない。
- 遊び・運動面は5～6才レベルにまで達しているが、検査項目の中のボールを使った遊びができていない。

MEPA プロフィール表

Profile for Movement Education Program Assessment



- MEPAプロフィール表では4段階（3才程度）まではすべてマスターしているが、それ以上の段階では所々、マスターしていない段階がみられる。
- 到達度で見ると、運動、技巧面が高く、姿勢、表出言語が低いと言える。

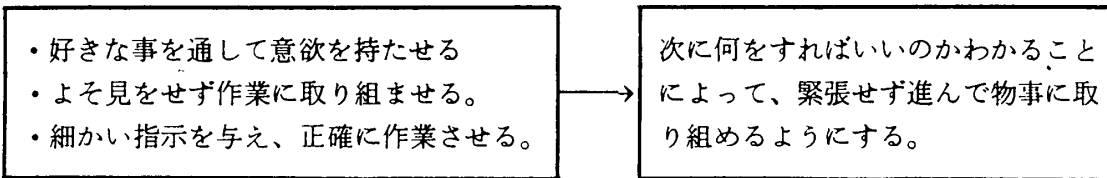
(3) 身体・性格・行動上の特徴

- ローレル指数（102）、体脂肪率（8.4）とやせすぎである。（算出法P〇〇参照）
- 身体を動かすことは非常に好きで意欲的に取り組んでいるが、体が硬いせいもあり、よく転倒する。
- 興奮しやすく、一担興奮すると自制がきかない。
- こだわりが強く気分転換が図りにくい。
- 自分に気に入らないことがあると、友達に暴力をふるったり、悪口を言ったりする。
- カーッとすると友達に暴力を振ったり、物を投げたり、乱暴な言葉を使う等、社会性に問題がある。

氏名	T.M	性別	女	生年月日	55年5月22日生
第1回評定	63年10月12日	年齢	6歳4ヶ月		
第2回評定	元年6月11日	年齢	9歳1ヶ月		

2. 取り組みの概要

(1) 指導仮説



(2) 指導の方針


- 自分の好きな遊びやお手伝い等を通して、意欲的に行動できるようにする。
- サーキット、合同体育、外サーキット（クラス）を通して、身体意識、筋力、持久力、調整力を高め、バランスのとれた身体をつくる。
- 日常生活全搬及び生活単元学習を通して、言語理解力、集中力をつけ、指示に素直に従って行動できるようにする。

3. 指導実践例

(1) 生活単元学習による取り組み

生活単元学習においては、M.T児の興味をもっているものに焦点をあて、つもりみたく活

動を通して、授業に集中させた。

目 標	様 子	考 察	備 考
<ul style="list-style-type: none"> 作業活動が含まれるため、作業中は友達のことを気にせず、自分のことに集中すること。 自分のなりたいものになって走ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「バイキンマンになりたいな」と言っているところに魔法のマントといって大きな布をかぶせてあげると、教室をとび出してローカを走り回っていた。 色ぬり作業も、「これバイキンマン」と言って塗った絵をよく見せてくれた。 友達の様子もあまり気にしていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のなりたいものになりきって走り回る姿から、みたてつもり活動の時期だと再認識する。 	<p>運動会当日、走る前に「バイキンマンで一等になる」と言っていた。</p>

(2) 外サーキットを通して

築山、とび石、鉄棒、つり橋、ランニング等を1時間位かけて毎日行なった。(9月より)

		鉄 棒	ラ ン ニ ン グ
様子	9月	・静止して10秒位しかぶら下がれなかった。	・150メートル位走ってすぐに「えらい」と言って歩きだしてしまった。
	10月	・静止して25秒位ぶら下がるようになった。	・黙って300メートル以上走れるようになった。

- ・体を動かすことが非常に好きなM・Tであるので、とにかく集中が切れないように絶えず声かけをして、やる気を持続させた。また鉄棒は1日に1～2秒ぶらさがる時間を伸ばした。前回り降りもさせた。はじめての取り組みである。

3. 考察及び今後の課題

集中力に欠け、自己中心性が強く、対人関係でもトラブルをよく起こしていたM児であるが、行動を受容し、ほめてやったり、助長するような場を多く作ってやると本人はその気になって喜びを持って指示された内容を行動に移す。今後は上記の取り組みを続けていきながらも、声かけや指示を少なくして、自分自身で物事に取り組めるよう、又成就感を味わえるように指導していく必要がある。



(鉄棒をするM・T児)